

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

つくば市まち・ひと・しごと創生推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

茨城県つくば市

### 3 地域再生計画の区域

茨城県つくば市の全域

### 4 地域再生計画の目標

つくば市は、筑波山などの恵み豊かな自然、最先端の科学技術、世界に開かれた多様性など、先人たちの様々な資産を受け継いでいる。市内の人口は2020年4月に242,159人となっており、つくばエクスプレス沿線の鉄道駅を中心に人口が増加傾向にある。自然動態については、2018年に前年比560人の増加となっており、市制施行後のピークである1994年（前年比1,159人の増加）からは減少傾向にあるものの、依然として自然増を維持している。社会動態については、2018年に前年比2,886人の増加となっており、2015年から年間2,000人を超える増加が継続している。一方、生産年齢人口と年少人口は、それぞれ2025年（154,714人）と2020年（32,943人）をピークに減少傾向となり、老年人口は、2015年（43,494人）から2045年（78,409人）までの30年間で、ほぼ倍増する推計となっている。

将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所によると、ピークとなる2035年には247,460人となり、今後も人口増が継続する推計であるが、地域ごとに状況は異なる。直近10年間において、主要鉄道駅が含まれる谷田部地区では、30,188人が増加（2008年：74,034人、2018年：104,222人）しているのに対し、郊外部である筑波地区及び荃崎地区では、それぞれ2,947人の減少（2008年：20,213人、2018年：17,266人）、1,246人の減少（2008年：24,493人、2018年：23,247人）となっており、行政界縁辺部や郊外部において人口が減少する傾向にある。今後もこの傾向は継続し、さらに増加地域と減少地域の二極化が進むと推察される。

人口の二極化は、市全体としての一体感の不足やコミュニティの希薄化を加速させる懸念がある。つくば市は研究学園都市の概成に伴い、6町村の合併によって誕生したまちであり、さらには、つくばエクスプレス沿線では新たなまちが形成されてきている。消費行動の変化によって中心市街地では大規模店舗が閉店するなどかつてのにぎわいが失われ、旧町村の生活拠点となっていた周辺市街地においても商業機能の低下が進んでいる。

産業面では、学術研究や専門・技術サービス業の割合が高い特徴を持っているが、市税収入に占める法人市民税の割合が9%であり、他の先進自治体の割合や個人市民税の35%と比較して低いことから、稼げる産業・従事者を育てていく必要がある。また、農業も主要産業の一つであるが、1995年に7,227人であった第1次産業就業者数が2015年に3,122人に半減していることから、後継者不足が推察される。さらに、2005年（つくばエクスプレス開通年）から2018年にかけて、畑の総面積が減少（7,006ヘクタールから6,322ヘクタール）しているのに対し、宅地の総面積は増加（5,516ヘクタールから6,309ヘクタール）していることから、つくばエクスプレス沿線等の開発に伴い、農地から宅地への転換が図られたことによって都市化が進んでいることが示唆され、近年の農業従事者の急激な減少も影響し、耕作放棄地の増加といった農村環境の変化による課題を抱えることとなっている。

これらの背景を踏まえ、つくば市は社会・経済等の情勢変化に的確に対応し、諸課題を克服しながら次の世代に継承・発展させていくため、「持続可能都市」を目指す。そのために、21世紀半ばまでを見据えたまちづくりの基本理念として「つながりを力に未来をつくる」を掲げている。そして、次の基本目標を設定し、多様なコミュニティの中で、顔と顔が見えるつながりをつくり、挑戦が新たなまちの活力を生み出し、さらなる好循環を生み出すことで、まちを持続的に発展させていくための取組を進めていく。

- ・基本目標1 魅力をみんなで創るまち
- ・基本目標2 誰もが自分らしく生きるまち
- ・基本目標3 未来をつくる人が育つまち
- ・基本目標4 市民のために科学技術をいかすまち

**【数値目標】**

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	「市政に市民が参加できる環境が整っていると思うか」に対して「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を選んだ人の割合	29.4%	40.0%	基本目標1
ア	「あなたが市外の友人に紹介したい(自慢したい)と思うつくば市の魅力はなんですか。」の各分野において「どちらかといえば、紹介したい」と「紹介したい、自慢である」を合計した際の割合	57.0%	60.0%	基本目標1
ア	「これからもつくば市に住み続けたいと思う」設問に対し「住み続けたい」と答えた人の割合	53.5%	56.2%	基本目標1
ア	つくば市に「愛着がある」と回答した人の割合	35.4%	38.9%	基本目標1
イ	「高齢者が安心して住み続けられる環境が整っている」に対し、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を選んだ人の割合	31.4%	34.4%	基本目標2

イ	「住みやすいと感じる主な理由」として「充実した医療機関・福祉サービス」を選んだ人の割合	32.1%	35.1%	基本目標 2
イ	健康寿命の延伸	80.9歳	81.4歳	基本目標 2
イ	地域の住民が協力して行う防犯活動へ参加している人の割合	15.8%	17.4%	基本目標 2
イ	公共施設・インフラについての「個別施設計画(長寿命化計画)」の策定数	5計画	10計画	基本目標 2
イ	日常利用する交通手段が自家用車である人の割合	85.8%	83.5%	基本目標 2
イ	「住みやすいと感じる主な理由」として「豊かな自然」と答える人の割合	59.3%	60.0%	基本目標 2
ウ	「つくば市には安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると感じるか」に対し、「親子世帯」が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を選んだ人の割合	59.1%	70.0%	基本目標 3
ウ	「将来の夢や目標を持っていますか」に「はい」と回答する児童・生徒の割合	77.5%	80.0%	基本目標 3
ウ	「自分らしく自分のやりたいことができる社会であると思うか」に対し、「そう思う」、「どちらかといえばそ	55.7%	64.1%	基本目標 3

	「思う」と答えた人の割合			
エ	技術系の新規創業数	40件	50件	基本目標 4
エ	新規就業に伴う新規就職者数	現状値なし	390人	基本目標 4
エ	「先端的な製品・サービスが暮らしの中にかざれていると思う人の割合」	11.8%	50.0%	基本目標 4
エ	一人一日当たりの生活系ごみの排出量	695 <sup>グラム</sup>	668 <sup>グラム</sup>	基本目標 4

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2 及び 5-3 のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

第2期つくば市戦略プランに関する事業

ア 魅力をみんなで創るまちに関する事業

イ 誰もが自分らしく生きるまちに関する事業

ウ 未来をつくる人が育つまちに関する事業

エ 市民のために科学技術をいかすまちに関する事業

#### ② 事業の内容

ア 魅力をみんなで創るまちに関する事業

地域活動と市民チャレンジへの支援、区会加入及び新規区会設立促進と活動支援、市政への市民参加の推進、SDGs普及による市民活動の推進、豊かな農資源を輝かせることによる魅力の創出、豊かな資源をいかした観光の振興、文化芸術の推進及び文化財の保存と活用、スポーツでつながるまちの推進、空き家・空き店舗等の有効活用の推進、魅力あ

る研究学園都市地域の推進、地域資源をいかした持続的な周辺市街地の振興、市民目線の効果的な広報の推進、市内外へ向けたPRの推進等、市民が中心となり、多様なコミュニティを超えて顔と顔が見え、人と人がつながり、つくばならではの魅力を高め、世界に示すまちをつくるための事業。

#### **イ 誰もが自分らしく生きるまちに関する事業**

世代や分野を超えた地域の居場所づくりの拡充、民生委員等のサポート強化と次世代の育成、認知機能低下等の支援策情報発信と相談体制の充実、地域で安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実、障害者の自立に向けた就労等の支援、一人ひとりのこころと体の健康づくりの支援、誰もがつながり役割を持てる社会参加の環境整備、市の災害対策の推進や公共施設の機能維持、自宅の安全・備蓄対策や地域での支えあいの推進、防犯意識を高め、安全・安心を実感できる生活環境づくり、公共施設・インフラの効果的な維持管理の推進、保有資産の有効活用の推進、保有資産の適正化、公共施設やインフラ管理への先端技術等の導入、まちづくりを支える公共交通ネットワークの構築、自動車から自転車への転換の推進、身近な自然を楽しむ環境づくり、自発的な保全活動の推進等、誰一人取り残されず、一人ひとりの安心が守られ、地域の隅々まで福祉がいきわたり、つくばに集うすべての人が自分らしく行き、自然豊かで幸せがあふれるまちをつくるための事業。

#### **ウ 未来をつくる人が育つまちに関する事業**

こどもを安心して生み育てられる環境整備、ニーズに対応した子育て環境の整備、こどもも親も楽しめる遊べる場の整備、個性を伸ばし未来を切り拓く力を育む学校教育の創出、魅力ある放課後の創出、就学前における子どもの遊びや体験の充実、多様性をいかした社会の推進等、自分たちのまちと世界の未来について考え、よりよい未来を次の世代に引き継いでいけるよう、自ら行動する人が育つまちをつくるための事業。

#### **エ 市民のために科学技術をいかすまちに関する事業**

新たな共創の仕組みづくり、社会実装の推進によるイノベーション創出、地域産業人材の確保・定着の推進、地元企業等の新たなチャレンジ

の支援、人とテクノロジーが共生するスマートシティの推進、データで市民を豊かにするまちの推進、書かない・待たない・行かないデジタル窓口の推進、食品ロス削減に向けた意識啓発、再資源化、再利用化の推進、環境美化活動の推進、低炭素化の推進等、市民の日々の生活や地球環境をよりよくするため、科学技術の成果を最大限活用し、課題の解決に貢献するとともに、社会にイノベーションを生み出すまちをつくるための事業。

※ なお、詳細は第2期つくば市戦略プランのとおり。

③ **事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））**

4の【数値目標】に同じ。

④ **寄附の金額の目安**

24,000,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ **事業の評価の方法（PDCAサイクル）**

毎年度3月に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかにつくば市公式WEBサイト上で公表する。

⑥ **事業実施期間**

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

5-3 **その他の事業**

該当なし

6 **計画期間**

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで